

2014 年度 小委員会活動成果報告

(2015 年 2 月 5 日作成)

小委員会名	津波荷重小委員会	主 査 名：奥田泰雄 就任年月：2014 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (荷重運営委員会)	委員長名：緑川光正 主 査 名：高田毅士
設 置 期 間	2014 年 4 月 ～ 2018 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>建築物荷重指針・同解説の 2015 年改定に伴い、建築物や工作物の津波荷重および耐津波設計法に関する指針およびその解説を新たに提示する目的で、2012 年に津波荷重 WG を荷重運営委員会下に設置した。その後、改定版に対するパブコメや構造本委員会の査読意見、刊行後の講習会などに対応する必要がある。また、津波荷重に関する研究を促進し、次期改定に研究成果を反映させる必要もある。これらを目的とし津波荷重小委員会を 2014 年 4 月に設置した。活動計画は以下のとおりである。</p> <p>初年度：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 構造本員会の査読意見に対する回答を含め、必要に応じて津波荷重指針案の修正を行う。 2) 津波荷重指針策定で確認された研究課題の整理を行い、次期改定に向けた研究ロードマップを検討する。特に津波の発生確率を踏まえた津波荷重の設定方法に関する研究の調査を開始する。 3) 最近整備されてきている国内外の規基準に関する情報を収集する。 4) 「建築物荷重指針を活かす設計資料 1」に加えるべき内容を検討し、原稿作成を開始する。とくに津波荷重に必要な設計浸水深や設計流速を求めるための数値流体計算のガイドライン案を検討する。 5) 津波災害よりもはるかに頻度の多い洪水や高潮等による建築物の被害に関する研究についても調査対象とする。 <p>2 年度：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 荷重指針講習会で津波荷重の解説を行い、津波荷重指針に関する質問や要望、意見等を纏める。必要に応じて、大会 PD 等で津波荷重指針に関して広く意見を募集する。これらの質問や要望、意見等も踏まえ、次期改定に向けた研究ロードマップを纏める。 2) 委員は研究ロードマップに則って、津波荷重改定に必要な研究を開始し、関連する研究事例の収集に努める。 <p>3～4 年度：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 委員は研究ロードマップに則って、津波荷重改定に必要な研究を開始し、関連する研究事例の収集に努める。 	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：有</p> <p>主査：奥田泰雄 (国土技術政策総合研究所) 幹事：石原 直 (建築研究所)・長谷部雅伸 (清水建設) 委員：有川太郎 (港湾空港技術研究所)、糸井達哉 (東京大学)、壁谷澤寿一 (国土技術政策総合研究所)、阪田 升 (環境シミュレーション)、庄司 学 (筑波大学)、館野公一 (鹿島建設)、寺崎 浩 (大成建設)、中埜良昭 (東京大学)、西嶋一欽 (京都大学)、濱本卓司 (東京都市大学)、松富英夫 (秋田大学)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>津波荷重シミュレーション WG: 建築物荷重指針・同解説の 2014 年度改定に伴い、「建築物荷重指針を活かす設計資料 1」を 2015 年内に出版する予定となっている。津波荷重を算定する上で重要な情報である浸水深と流速については数値シミュレーション等により求めるため、適切な数値シミュレーションを実施するためのガイド等が必要となる。そこで数値シミュレーションガイド等を上記の建築物荷重指針関連資料に加えることを目的として、津波荷重小委員会下に本 WG を設置する。</p>	
2014 年度予算	130,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	7回（年度内計画を含む）
刊行物 （シンポジウム資料等は除く）	1. 建築物荷重指針・同解説（荷重運営委員会傘下7小委員会で共同）
講習会	1. 2014年度日本建築学会支部共通事業「建築物荷重指針」改定講習会 （荷重運営委員会傘下7小委員会で共同） 参加者数 1,114名
催し物 （シンポジウム・セミナー等） *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	1. 『建築物荷重指針・同解説』改定原案について本会 HP にて意見募集を実施した結果、会員から津波荷重に関する質問があり回答を行った。
目標の達成度 （当初の活動計画と得られた成果との関係）	初年度の1)、3)、4)は概ね達成でき、津波荷重指針案の修正、国内外の規基準に関する情報の収集、「建築物荷重指針を活かす設計資料1」の作成を行った。2)、5)については未着手であるが、2)については2015年の大会PDで議論し次期改定に向けた研究ロードマップを検討したい。5)洪水や高潮等による建築物の被害に関する研究についても検討を始めたと思う。
委員会活動の問題点・課題	1. PCの電源の取り合いになる場合があるので、各部屋に延長コードを数本以上用意してほしい。 2. サーバーにアクセスが集中すると非常に重くなり、委員会の打合せが出来なくなることがある。